

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 1 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520045

研究課題名(和文) 中国近代文学 余嘉錫の総合的研究

研究課題名(英文) Modern bibliography in China : a comprehensive research on Yu Jiayi

研究代表者

古勝 隆一 (Kogachi, Ryuichi)

京都大学・人文科学研究所・准教授

研究者番号：40303903

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円、(間接経費) 990,000円

研究成果の概要(和文)：中国近代の代表的な文学者である、余嘉錫(1884-1955)に関する総合的研究を遂行し、その著書『目録学発微』を研究し、翻訳・注釈・解題を作成し、古勝隆一・嘉瀬達男・内山直樹訳『目録学発微』(平凡社、2013年)として出版した。同時に、中国の北京大学に収蔵されている余嘉錫旧蔵書についても、調査を行った。

研究成果の概要(英文)：Our project made a comprehensive research on Yu Jiayi (1884-1956) who was a prominent classicist in modern China, and surveyed, translated, annotated and published his monograph "Muxue Fa wei". Besides, we made a research visit to Beijing University, China and surveyed Yu Jiayi's library.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：中国哲学・思想 文学 余嘉錫 中国近代 目録学

1. 研究開始当初の背景

ここ半世紀ほどの間に中国大陸で相次いだ出土資料の発見により、中国古代の文献への関心はかつてないほどに高まっている。出土資料の発見は、研究方法の質的な反省を促した。文献の内容をどこまで信用するのかをめぐり、中国はもとより我が国においても旺盛に論議されている。文献の内容を信ずるか疑うかは、もともと民国期の古代史学界を賑わした問題であり、それゆえ、今日の状況は民国期のその再演ともいえ、民国期文献学の到達点を正確に評価することは、今日における文献学の方向性を考える上でも、きわめて重大な意義をもつ。

民国期の文献学は、清朝考証学より継承した堅実な手法と、西洋学術の刺激のもとに生じた清冽な発想との融合により、それ以前に類を見ない豊富な内容を備えていた。本研究の対象たる余嘉錫は、当時の文献学が前提としていた文献の真偽や成立年代という問題設定そのものが、後世の著述観に囚われた先入見であることを看破し、「真か偽か」という単純な二者択一を乗り越え、古代に特有の著述営為のありかた、すなわち「体例」の解明へと、文献学の目的と手法とを転換させた。

余嘉錫の提言の重要性については、近年、中国ではすでに再評価の気運が生じているものの、我が国では、余嘉錫への関心が低いのが現状である。本研究の研究代表者ならびに研究分担者は、それぞれ中国古代の文献を研究対象とした論文において余嘉錫の方法を応用するとともに、かつて余嘉錫の主著の一つである『古書通例』を共訳した(古勝・嘉瀬・内山訳注『古書通例：中国文献学入門』平凡社、2008年)。

本研究は、以上の経緯を踏まえ、新たに余嘉錫を中心とする民国期文献学に対する全面的な検討を試みるものである。

2. 研究の目的

以下の四つの目的を設定し、研究計画を遂行する。

(1) 余嘉錫文献学の最大の成果でありながら、これまで全体を通して検討されたことのない『四庫提要弁証』二十四巻および『目錄学發微』の両書を精密に読解し、方法論にかかわる叙述を抽出・整理して体系化し、応用が可能なものとして提示する。

(2) 余嘉錫を、同時代の文献学者と比較し、また同時代の学術的背景と照合することにより、余嘉錫文献学を中国文献学史および中国近代学術の中に正確に位置づけ、さらに今日の文献学研究に対するその貢献を明らかにする。

(3) 中国における現地調査(資料調査・聞き取り調査)を含め、綿密な情報蒐集を実施し、余嘉錫に関する伝記史料の集成、なら

びに余嘉錫の著作目録、詳細な年譜の作成を行う。さらに、余嘉錫とその周囲に生きた人物を網羅するデータを作成し、電子的に利用可能な形に整える。

(4) 上記(1)から(3)までの成果を印刷物およびウェブサイト上で積極的に公開し、各方面から意見を徴する。

3. 研究の方法

上記、第一から第四までの目的に即して、それぞれ計画を実行した。

第一に、余氏の著作である『四庫提要辨証』『目錄学發微』の内容をデジタル化したうえで、詳しい検討を加えた。特に、余嘉錫の提唱する「体例」に着目して研究を進めた。これは、古く唐代の劉知幾、宋代の鄭樵、清代の章学誠などが、伝統的文献学において提起した問題を批判的に継承したものであり、余嘉錫文献学の解明を通して、伝統的文献学の展開と近代文献学の位置とを、一貫したパースペクティブのもとに捉えることが可能となった。

第二に、余嘉錫の文献学を中国目錄学史の中に位置づけるべく、清朝の文献学者および民国時代の文献学者との比較を行った。

第三に、北京大学に収める余嘉錫の蔵書に関する予備的な調査を行い、今後の課題を明らかにした。

第四に、以上の調査で得られた内容をウェブ上で公開した。

4. 研究成果

まず、余嘉錫の著書『目錄学發微』を翻訳・注釈し、解題を付した、『目錄学發微』(平凡社、2013年)を出版し得た。余嘉錫の文献学についての十分な研究に基づき、専門的知識を盛り込んだ訳注となったものと自負する。この日本語訳に付した古勝隆一「解題」は、余嘉錫目錄学に関する重要な知見を提示したものである。なお、この翻訳については、慶應義塾大学斯道文庫の高橋智教授が、『東方』第393号(2013年10月)誌上にて書評のうえ紹介されている。

あわせて、『古書通例』『目錄学發微』の両書につき、国内外の各図書館の蔵本を踏まえた上で、系統的な調査を完了することができた。

次に、中華人民共和国の北京大学に所蔵されている余嘉錫氏旧蔵書について、2010年9月、現地を訪問し予備的な調査を行うこともできた。

そして、これらの成果を「中国近代文献学 余嘉錫の総合的研究」として、ウェブ上で公開することができた(後述)。

研究成果を振り返ると、『目錄学發微』の日本語訳注の出版にいたるまでの過程で、多くの成果を得ることが出来、また意義のある

訳注を世に問うことが出来た。その一方で、『四庫提要弁証』については、やや分析が不十分のまま、最終年度を終える結果となった。活字本四冊に及ぶデータをデジタル化し、有効に利用する土台を整えてあるので、今後の研究に生かしてゆきたい。

また、中国における調査については、北京大学中国古代史研究所において、いまだ余嘉錫旧蔵書目録が出版されておらず、その全貌が明らかとなっていないため、目録の出版を待つてあらためて調査を行う必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

・内山直樹「伝記と口説 漢代春秋学への一視点」、『中国文化 研究と教育』第71号、2013年

・古勝隆一「禮學、緯書、道家 《禮記正義》及賈大隱《老子述義》的融合主義」、『禮樂中國 首届禮學國際學術會議研討會論文集』上海書店出版社、2013年

・嘉瀬達男「余嘉錫『古書通例』『目録学発微』の版本と成立過程」、『小樽商科大学人文研究』第124号、2012年

・古勝隆一「論魏晋南北朝之积奠」、『中古時代の礼儀、宗教与制度』、上海古籍出版社、2012年

・古勝隆一「徐邈音義中的去声問題」、『中国経学』第10輯、広西師範大学出版社、2012年

・内山直樹「班固の断限意識について 「春秋考紀」という呼称の背景」、『千葉大学人文研究』第40号、2011年

・古勝隆一「武則天「升仙太子碑」立碑の背景」、麥谷邦夫編『三教交渉論叢続編』京都大学人文科学研究所、2011年

・内山直樹「『七略』の体系性をめぐる一考察」、『千葉大学人文研究』第39号、2010年

・内山直樹「漢代所見序文体例的研究」、曹峰編『日本学者論中国哲学史』、華東師範大学出版社、2010年

・河野貴美子「北京大学図書館蔵余嘉錫校『弘決外典鈔』について」、『汲古』第58号、2010年

[学会発表](計3件)

・古勝隆一「《唐律疏議》與儒家義疏學」(中国法律史前沿問題國際學術研討会)、中国厦門大学、2013年

・古勝隆一「告朔之餼羊邢疏札記」(経学与中国文献文化國際學術研討会)、中国南京大学、2013年

・古勝隆一「略論旧抄『説文』口部残簡」(第二回許慎文化國際研討会)、中国河南省漯河市政府、2010年

[図書](計1件)

・古勝隆一・嘉瀬達男・内山直樹訳『目録学発微』(平凡社、2013年)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

「中国近代文献学 余嘉錫の総合的研究」
<http://yujiaxi.wordpress.com/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

古勝隆一 (京都大学・人文科学研究所・准教授)

研究者番号: 40303903

(2)研究分担者

内山直樹 (千葉大学・文学部・准教授)

研究者番号: 20449284

(3)研究分担者

嘉瀬達男（小樽商科大学・言語センター・准教授）

研究者番号：80449537

(4)連携研究者

河野貴美子（早稲田大学・文学学術院・教授）

研究者番号：20386569